Your Own SDGs

DEレポート No. 7

2023年2月

作成者:J.N

脱炭素経営ドットコム
By DENKOSHA

「DEレポート」とは、環境やSDGsに係る社会問題を取り上げ、原因・背景から解決に向けた施策事例や将来の展望までを調査しコンパクトにまとめた報告書です。脱炭素経営ドットコムを運営する株式会社電巧社では、全従業員が本レポートの作成に取り組んでいます。

自分ごとになっていないSDGsへの不安

脱炭素経営ドットコム

SDGSが目指す持続可能な世界は私たちが何としても実現せねばならない課題です。17のゴール、169のターゲットに目を向けると、いずれも地球環境、人類生活に欠かせない大切な目標に違いありません。2030年の目標達成を目指して国内外で2015年から取り組みがスタートしていますが、既に7年も経過し、残り期間はあと8年しかありません。

それなのに…

- 一向に私たち一人ひとりの自分ごとになっていないのはなぜでしょうか？
- 一体何が原因で私たちの自分ごとにならないのでしょうか？

■ 国別の達成度合い（2022年）

1位：フィンランド（86.5）	11位：イギリス（80.6）
2位：デンマーク（85.6）	12位：ポーランド（80.5）
3位：スウェーデン（85.2）	13位：チェコ共和国（80.5）
4位：ノルウェー（82.3）	14位：ラトビア（80.3）
5位：オーストリア（82.3）	15位：スロベニア（80.0）
6位：ドイツ（82.2）	16位：スペイン（79.9）
7位：フランス（81.2）	17位：オランダ（79.9）
8位：スイス（80.8）	18位：ベルギー（79.7）
9位：アイルランド（80.7）	19位：日本（79.6）
10位：エストニア（80.6）	20位：ポルトガル（79.2）

出典：Sustainable Development Solutions Network「Sustainable Development Report 2022」を利用し筆者作成

■ 日本のSDGs目標別の達成状況（2022年）

目標達成 SDG achieved	【目標4】質の高い教育をみんなに 【目標9】産業と技術革新の基盤をつくろう 【目標16】平和と公正をすべての人に
課題が残っている Challenges remain	【目標1】貧困をなくそう 【目標3】すべての人に健康と福祉を 【目標6】安全な水とトイレを世界中に 【目標8】働きがいも　経済成長も 【目標11】住み続けられるまちづくりを
重要課題 Significant challenges remain	【目標2】飢餓をゼロに 【目標7】エネルギーをみんなに　そしてクリーンに 【目標10】人や国の不平等をなくそう
主要な課題 Major challenges remain	【目標5】ジェンダー平等を実現しよう 【目標12】つくる責任　つかう責任 【目標13】気候変動に具体的な対策を 【目標14】海の豊かさを守ろう 【目標15】陸の豊かさも守ろう 【目標17】パートナーシップで目標を達成しよう

出典：Sustainable Development Solutions Network「Sustainable Development Report 2022」を利用し筆者作成

国ごとの達成状況

壮大な目標だからこそシンプルに捉える

脱炭素経営ドットコム

SDGsは、ゴールが壮大かつ沢山ありすぎて、わかりづらいように思います。国ごとにも直面する課題や身近なものも異なりましょうから、地球に暮らす私たち一人ひとりが真摯にこれに向き合い取組んでいくにはより身近でわかりやすいゴールにすべきではないでしょうか。

国ごと、地域ごと、子供、年配者、現役世代と、それぞれに取組むべき課題を示し、具体的な行動指針にブレークしていかないと自分ごととして捉えることはできません。ゴールごとの年次達成度合いがわかりやすく示されないのも活動に弾みがつかない原因の1つでありましょう。

達成意欲をもって取り組んでもらうには一目で成果がみえるような工夫が不可欠です。ゲーム感覚で楽しく取組める工夫も必要でしょう。国や企業・団体などSDGs情報を発信する側が上手に生活者を巻き込めていない、行動を喚起できていないことがSDGsの一番大きな課題であろうと思います。

■ 企業による子供たちへの環境保全啓蒙活動

くら寿司は、回転寿司という身近な題材から水産業や食をめぐる課題とその解決方法を考える小学生向け出張授業を実施しています。

卵やかんぴょう巻きだけが並ぶイミテーション寿司桶を見せることで、50年後には魚がいなくなるという海洋環境リスクやフードロス問題について、小学生に分かりやすく伝えています。

出典：くら寿司「出張授業 お寿司で学ぶSDGs」

■行政による生活者への環境保全啓蒙活動

再生可能エネルギーを使って上野公園をライトアップする催し「創エネあかりパーク」があります。今年で開催10年になりますが、家庭や企業に何をどうしてほしいと呼びかけているのか、伝えたいことをもっと明確にしないと意識改革にも具体的な活動にも繋がりません。

写真：創エネ・あかりパーク2022実行委員会「創エネあかりパーク®2022」

楽しく取組める工夫と成果の見える化が課題

(c) DENKOSHA Corporation

自分たちができることから始めよう

私たちが自分ごととして取組む際に一番大切にしているのはわかりやすさと楽しさです。年に2回開催する大規模BBQではSDGsBBQ大会と名付け、可燃できるお皿にコップを1人1セット。それぞれ名前を書いて会が終わるまで使います。食べ物は自分が食べる分だけをとることをルールづけフードロスを最小限に少なくし、ゴミの発生をどれだけ抑えられたか閉会時に皆で確認します(以下(A)参照)。

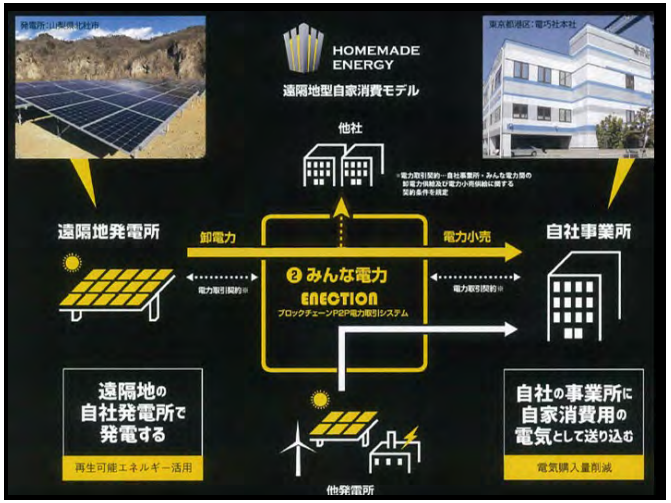
また、日々当社で使う事業用電気は、ホームメイドエナジー(自社開発)という遠隔地の太陽光発電所で発電した電気をみんな電力さんやデジタルグリッドさんと協業し送電、再生可能エネルギー100%でまかなっています。更に電気使用量をデマンド監視し、目標値を越えた電力消費にアラームを鳴らし節電できるように工夫しています(以下(B)参照) 。

国や団体任せにせずに、私は自分たちができることから始める、それをできる限りやることが持続可能な世界をつくる取組の第1歩であろうと思います。この取組があと8年で終えることなく、私たちの孫子の時代になっても継続されていつの日か実を結んでくれることを切に願っています。

(A) 電巧社のSDGsBBQ大会

写真:電巧社

(B) 自社で使う電気を100%再生可能エネルギーで賄える仕組み



出典:電巧社「ホームメードエナジー」

身近なSDGs目標に継続的に取り組む

(c) DENKOSHA Corporation

参照・引用資料

- Sustainable Development Solutions Network,「Sustainable Development Report 2022」,2022.11.03閲覧
- くら寿司,「出張授業 お寿司で学ぶSDGs」,2022.10.29閲覧
- 創エネ・あかりパーク2022実行委員会,「創エネあかりパーク®2022」,2022.11.27閲覧
- 電巧社,「ホームメードエナジー」,2022.10.29閲覧

脱炭素経営ドットコム

https://de-denkosha.co.jp/datsutanso/

脱炭素経営とは、再生可能エネルギーを創る「創エネ」、使う電気を減らす「省エネ」、創った電気を貯める「蓄エネ」を うまく活用し、会社・事業で排出する温室効果ガス「0」を目標にする経営のこと。
中小企業の私たちにも、できる取り組みが沢山あることを伝えたい。このような想いで、 90年以上「電気」に向き合ってきた電巧社ならではのアイデアが詰まった創エネ、省エネ、蓄エネのソリューションをお伝えできる情報を、当サイトで発信しております。

DEレポートに関するお問い合わせ先はこちらへ

電気のコンシェルジュ
DENKOSHA
株式会社 電巧社

〒105-0014 東京都港区芝2－10－4
TEL: 03－3453－2221(本社代表)
担当:DEレポート事務局

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失 利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は株式会社電巧社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。